

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 5月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	4072100177
法人名	有限会社 ひかり
事業所名	グループホーム ひかりの里
所在地 (電話番号)	〒821-0012 福岡県嘉麻市上山田 1094 - 84 (電話) 0948 - 52 - 0101

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年4月28日	評価確定日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(20年 3月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (3月 31日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護 1	5 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	7 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松岡病院、俵歯科医院、たちばな苑
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者がその人らしく暮らし続けることが出来るような支援として、利用者一人ひとりの意向や思い、希望を聞きながら、なるべく希望に沿った援助を行うようしている。カラオケや散歩、畑仕事等、利用者がやりたいと言った時には職員と一緒に行うようにしたり、入浴等、気分が乗らない時には無理強いしたりすることはせず、臨機応変に対応するようになっている。また利用者がホームに入居しても、以前からのなじみの関係が途切れないように、かかりつけ医をはじめ、美容室や買い物等、もともとなじみのところに連れて行くようになっていると共に、ホーム周辺の住民とのなじみの関係も作れるように、行事等の時にはお互い行き来しながら交流を図っている。ホームの基本理念に「共に笑顔と活力に満ちた・・・」とあり、その理念に少しでも近づけるように管理者及び職員は日々努力しているところである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域への広報や啓発、介護計画の目標の立て方、成年後見制度についての理解等が主な改善項目となっており、評価後、ミーティングにおいて、それらについて職員に伝え話し合いを行った。しかし未だ改善していない項目も見受けられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員ではないが、数名の職員の意見を聞きながら、管理者が作成した。自己評価を作成する意味や、評価のねらいについて、管理者は伝えつつもりだったが、実際には職員はあまり理解できていなかった。再度、評価の意義や活かし方を判りやすく伝え、具体的に活用していく姿勢を示していくことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年の9月に立ち上げて開催したが、それ以降はまだ開催していない。運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったりする貴重な機会である。地域住民や行政等にも声をかけて、積極的に会議を開催することが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	少なくとも毎月1回は家族が面会に来られるので、その時に管理者と面談するようしており、意見や苦情を吸い上げている。しかし直接言いにくいこともあると考え、ご意見箱等も設置して対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の福祉施設の祭りやバザーに出向いていたり、ホーム内で行っている餅つきに地域の人たちに参加してもらって、お互い行き来しながら交流の機会を持っている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	ホームの考え方として、利用者の尊厳を大切にすることについては理念として掲げられているが、地域密着型サービスの役割については盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスの意義を再度確認・検討し、利用者の地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念を作り上げることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室や休憩室に理念を掲示しており、いつでも見れるようにしている。また週に数回、申し送りの時間に職員全員で理念を唱和し、実践に向けて日々取り組みを行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣にある福祉施設の祭りやバザーに出向いていたり、ホーム内で行っている餅つきに地域の人たちに参加してもらったりする等、お互い行き来しながら交流の機会を持っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善事項についてはミーティングの時に伝え、話し合いを行った。また今回の自己評価については全職員ではないが、数名の職員と話し合いの機会を持った上、作成にあたった。	○	前回の評価の改善点について、今回の評価時点においてもあまり改善した部分が見られなかった。職員が評価に前向きに取り組んでいくには、管理者が再度評価の意義や活かし方について職員にわかりやすく伝え、具体的に活用していく姿勢を示すことが必要ではないだろうか。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年9月に運営推進会議を行ったが、それ以降開催していない。	○	家族会に引き続き運営推進会議を開催していることもあったが、参加者は職員と家族のみであった。運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったりする貴重な機会である。地域住民や行政等にも声をかけて、積極的に会議を開催していくことが求められる。

グループホーム ひかりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用者がいるため、ケースワーカーとの連携は密に取れている。介護保険担当者とはケアマネジャーが積極的に連携をとっており、何かあればすぐに相談するようにしている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会での勉強会等に参加して、学ぶ機会は設けているが、利用者の家族に対して、具体的に説明を行ったことはない。	○	特定の職員だけではなく、全職員、制度についての理解を深めてほしい。ホームにパンフレット等を常備して、誰もが関係機関に対する橋渡しができる状態にしておくことが望まれる。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に受診記録等を家族に渡すようにしている。また利用料を持参してもらうようにしており、その機会に家族と色々話しをするようにしている。また何かあれば、その都度電話にて報告するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た際に直接意見を言われることが多い。しかし直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、ご意見箱等も設置して対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	あえて担当制にせず、職員は普段から二つのユニット間を回しながら勤務するようにしている(両方のユニットのことが把握出来ていたほうが緊急時等対応しやすいため)。そのような体制をとっているため、職員の退職等での利用者のダメージはほとんど見られない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者は人生の先輩であるので、十分敬って対応するようにと、日頃から職員に話しをしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会の勉強会にはなるべく参加するようにしている。また、外部研修の案内は掲示するようにしており、参加を募るようにしているが、勤務の状況もあり、なかなか参加が出来ない状況である。</p>	○	<p>勤務状況にてなかなか全職員が研修に参加することが難しいようだが、事前に計画を立て、なるべく研修に参加できるようにシフトを組んだり、またホーム内でも勉強会を行ったりする機会を多く設けていくことが望まれる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や近隣にある他のホームとの連携がとれており、お互いのホームを見学したり、一緒に勉強会を開催したりしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験等を利用してもらいながら、徐々に馴染んでいけるような配慮や工夫を行っている。本人や家族の理解を得ることを一番に考えている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということとを大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり、逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>なかなか利用者本人から意向を聞きだすことが難しいため、家族から今までの生活状況等を聞いて、本人本位の介護が出来るように工夫している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見を面会時に聞いたり、職員の意見をミーティングの時に聞いたりしながら、それらを反映させたケアプランを作成している。</p>	○	<p>作成後、家族に見せてはいるが、同意のサインや捺印がなされていないもの目立った。どのような計画に基づき、どのようなケアを行っていくのかをきちんと説明した上、同意のサインをもらっておくようにすることが必要ではないだろうか。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、見直しを行っている。また1ヶ月に1回、モニタリングを行い、結果についてはケアプラン評価表に記載している。変化があった時は評価表の特記事項欄に記載しており、今のところ、その都度ケアプランの変更は行っていない。</p>	○	<p>変更があった時点でケアプランを作成し直さないと、その後のモニタリングがしにくいのではないかと。現状に即したプランの作成が求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院や理美容・買い物の支援を行っている。本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医への受診を支援している。また状況によっては往診をしてもらうことも可能である。急変の可能性が高い利用者については、救急対応が可能な病院に変わってもらうこともあるが、事前に本人や家族に説明し、同意を得ている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ、ホームでの終末期の対応は行っておらず、医療機関で対応してもらうこととしている。本人や家族にも、入居時にその旨説明しており、理解してもらっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせて、臨機応変に対応している。決して無理強いはいはしないように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけではなく、利用者にも配膳や片付け等、それぞれが負担にならないよう出来る部分を手伝ってもらっている。ただ、食事を摂るときは利用者のみで、職員は後ろに立って様子を見ている状態であった。	○	食材の買い物、調理、食事、後片付けなどは利用者の力の発揮や参加、他の利用者や職員との関係作りの面で、暮らしの全体の中で重要な位置にある。利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じものを食べるということが大切である。利用者と一緒に食事を楽める環境づくりを前向きに検討することが求められる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしており、利用者の希望時に入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者もいるが、無理強いせず、清拭等で清潔を保てるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や気持ちを引き出し、一人ひとりの力を活かせる場面を提供するようにしている。「カラオケしたい」「畑仕事がしたい」等の希望が多く、なるべく希望に添った対応を心がけている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は散歩に出掛けたり、ホームの庭で日光浴をしたりしている。また1ヶ月に1回はレクリエーションで外出する機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なるべく鍵はかけないようにしているが、その日の利用者の状態に応じて対応するようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に1回、ホーム内での避難訓練は行っているが、消防から来てもらって訓練したことはない。また今のところ、消防計画やマニュアルの作成もなされていない。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて(特に夜間帯)、地域の人々や他の事業所の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みが必要ではないだろうか。また、計画やマニュアル、また訓練の実施記録等、書類の整備も求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	正確なカロリー計算までは行っていないが、バランスのよいメニューづくりを心がけている。時々他事業所の栄養士が立てたメニューをもらって参考にしている。また水分量の確保には十分気を配っており、おおよその摂取量を記録に残すようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、ソファや食卓も一般の家庭で使用しているようなものが置かれており、ゆったりと心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁一面、収納スペースになっており、タンス等の持ち込みは少ないが、テレビや鏡台等を持ち込まれている利用者もあり、それぞれの好みが生かされた部屋となっている。		